

待生誕100年

著作権保護コンテンツ

29歳で終戦を迎えた瀬田貞二さんは、以降、自分の人生のすべてを子どもたちに捧げました。
子どもの心の栄養になる質の高い欧米の絵本を翻訳し、それらの絵本は半世紀を経てなお、
親子2代3代にわたり読み継がれています。絵本だけでなく評論なども多く執筆、
その基礎を作り上げ、日本児童文学界に偉大な足跡を残しました。

取材・文／村上早苗（P8～9、18～19）

瀬田貞二の まいた種

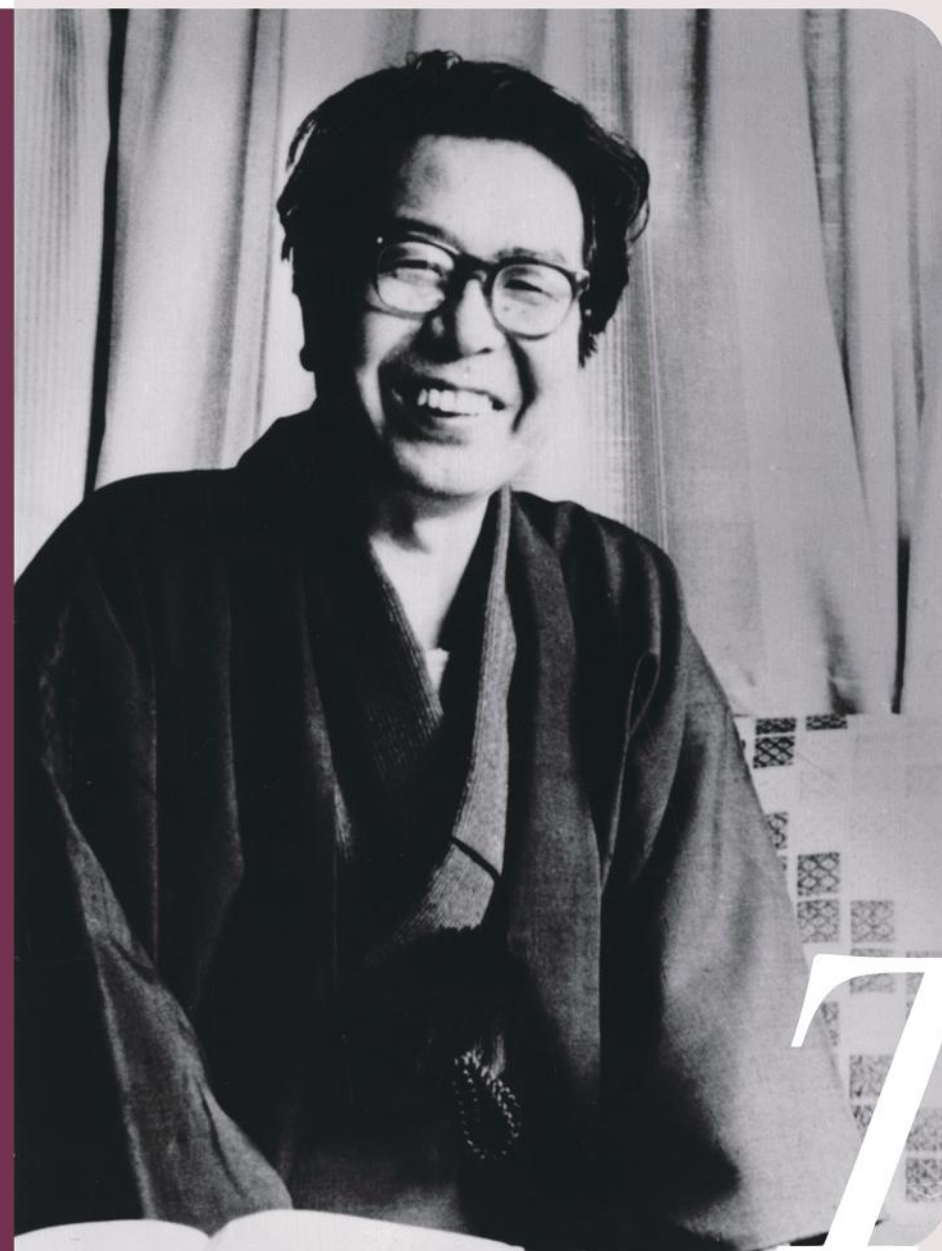
瀬田貞二という人
—— 齋藤惇夫さんに聞く

子ども時代

子どものころの瀬田さんについては、亡くなられたあとに遺稿集をつくるために、瀬田さんの幼なじみなどとお会いするうちにわかってきました。運動会で走るのは苦手だったそうです。それは、生まれつき勝負ということがお嫌いだったからではないでしょうか。

また、さまざまな集まりの中で、最初は中心にいないのに、いつの間にか中心になられていて、その場所を楽しいものにしてしまうという、天賦の才能をお持ちだったようです。それは、大人になってからも、亡くなられるまで同じでした。

瀬田さんは、小さいころから本を読むのが大好きで、本の世界で遊ぶ



瀬田さんとの出会い

私は新潟県の雪深いところで育ちましたが、小さいときから祖母が昔ばなしを語って聞かせてくれたので、昔ばなしが大好きになりました。小学校に入ってから、神話やファンタジーが好きで、よく読んでいました。その子どものころに感じた昔ばなしやファンタジーへの思いを、大人になってから、雑誌や講演会でピタッと言いあててくださる方がいました。それが、瀬田貞二さんでした。

私が瀬田さんをはじめてお見かけしたのは、勤務先の福音館書店の中でした。そのころ、瀬田さんや、石井桃子さんや、渡辺茂男さんなどが、「子どもの本研究会」というのをやっておられて、その会が終わって瀬田さんが出てこられたときに、「あの方が瀬田さんか」と思ったのを覚えています。

そのころ私は、自分でも物語が書きたくなって、最初の原稿が書けたときに、どうしても瀬田さんに読んでほしいなりました。原稿を持っておずおずと瀬田さんのお宅にうかがうと、瀬田さんはちやうど散歩に出ておられました。台所から奥さまが出てこられて、「渡しておくから、置いていきなさいよ」と言ってくださったので、ほっとしてお渡ししま

1916

瀬田貞二 略歴

- | | |
|--------------|--|
| 1916 (大 5) 年 | 4月26日、東京本郷に生まれる |
| 1928 (昭 3) 年 | 本郷小学校卒 |
| 1934 (昭 9) 年 | 開成中学校卒 |
| 1938 (昭13) 年 | 東京第一高等学校文科乙類卒 |
| 1941 (昭16) 年 | 東京帝国大学文学部国文学科卒
同年春より府立第三中学校夜間部・桂友中学校教諭 |
| 1942 (昭17) 年 | 兵役で千葉県の軍事病院で衛生兵として勤める（～45年） |
| 1945 (昭20) 年 | 府立第三中学校・桂友中学校教諭（～47年） |
| 1946 (昭21) 年 | 俳誌「萬緑」の創刊に参加。編集業務を担当する（～48年） |
| 1949 (昭24) 年 | 平凡社入社 「児童百科事典」全24巻の編集に携わる。56年完成 |
| 1957 (昭32) 年 | 平凡社を退社し、児童文学の翻訳や評論、創作などを手がける。
「なんきょくへいったしろ」で産経児童出版文化賞受賞 |
| 1960 (昭35) 年 | 川村短期大学教官（～65年） |
| 1962 (昭37) 年 | 青山学院女子短期大学教官（～74年） |
| 1963 (昭38) 年 | 「あふりかのたいこ」で産経児童出版文化賞受賞 |
| 1966 (昭41) 年 | 「ホビットの冒険」の訳で産経児童出版文化賞受賞 |
| 1967 (昭42) 年 | 「ナルニア国ものがたり」の訳で産経児童出版文化賞受賞 |
| 1975 (昭50) 年 | 「指輪物語」の翻訳などで日本翻訳文化賞受賞 |
| 1977 (昭52) 年 | 「指輪物語」で児童福祉文化賞奨励賞受賞 |
| 1979 (昭54) 年 | 「きょうはなんのひ？」で絵本にっぽん賞受賞
8月21日、肝硬変により急逝（享年63歳） |
| 1982 (昭57) 年 | 「落穂ひろい」で日本児童文学学会賞、日本児童文学者協会特別賞、
毎日出版文化特別賞受賞 |

1979

ことを、日常生活と同じように楽しめる子どもだったようです。近くにお金持ちの家の子が住んでいて、その家に入り浸って、アルスの「日本児童文庫」や、「小学生全集」（興文社）や、「模範家庭文庫」（富山房）などを片端から読んでいたと、よくおっしゃっていました。高等学校に入ると、ドイツ文学を片端から読み、そのあとドストエフスキーに埋没していたくれました。周囲の人たちからは、よく本を読む友人として一目置か

れていたようです。

このように言うと、西洋派のように聞こえるのですが、一方で瀬田さんは下町育ちで、町のお兄ちゃんやお姉ちゃんとの濃いふれあいの中で育ってこられました。ですから、日本文化に対しても、深い造詣をお持ちでした。戦後、平凡社の「児童百科事典」を編集されたときに、「戦争によつて失われた日本の妖怪たちを、ちゃんと復活させるためにこの事典をつくった」という一文を残され

ています。「児童百科事典」の「河童」という項目に、「いまもちゃんと、川や沼にすんでいる」と書いてしまう底流には、日本文化に対するかぎりない愛があったのだと思います。
先の大戦では、軍隊に召集され、衛生兵として千葉県の陸軍病院に配属されました。そこでも俳句教室を開くなど、さまざまな人が集まる場をつくられました。看護師をされていた奥さまとも、このとき出会わ

著作権保護コンテンツ 絵本作家さん！

この人にあれもこれも



「しごとば」シリーズ
などでおなじみ！

作／鈴木のりたけ
1,700円（ブロンズ新社）

すずき
鈴木 のりたけさん

PROFILE

すずき・のりたけ
1975年静岡県浜松市生まれ。『ぼくのトイレ』（PHP 研究所）で第17回日本絵本賞読者賞、『しごとば 東京スカイツリー ㊀』（ブロンズ新社）で第62回小学館児童出版文化賞受賞。最新情報への入口は「鈴木 のりたけ日記」より。
<http://noritakesuzuki.com/>

分け入っても分け入っても、絵本！

「絵本にはまだまだできることがあるはず」と、その未知なる可能性に挑戦中の鈴木 のりたけさん。3人のお子さんが自由に出入りする、ワクワクする秘密基地のような新しい“しごとば”を、今回、初披露！

撮影／石川正勝 取材・文／菅原千賀子

絵本作家になる前は
鉄道会社に勤務していました

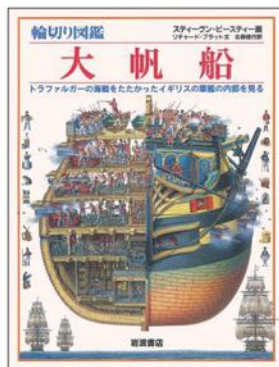
生まれは浜名湖畔です。秘密基地をつくり、人さまの庭からみかんをくすね、田んぼに侵入してザリガニを素手でとるのが得意な、悪さばかりする子どもでした。小学校の文集には誰からの入れ知恵なのか、弁護士になりたいと書いていたんです。口ゲンカも得意だったから、口でお金を得るなんてカッコいいとでも考えたのでしょうか、法学部をめざしたものの、六法全書を開いて「何このつまらない本、勉強したくない」と進路変更。

当時は「STUDIO VOICE」リラックス「BARFOOT」などのおしゃれ系雑誌が大好きだったので、就職活動では出版社などマスメディアを回りつつ、JR東海にも注目していました。東京・名古屋・大阪と、人が大量に行き来する場所を数多く持ち、約2万人もの従業員を抱える大企業で、おもしろいことができそうだと考え「僕がお金儲けの方法を生みだします！」と宣言して採用されました。

入社後はまず新幹線を完全に理解することを求められました。『定時安全運行第一』の会社だから当たり前のことなのに、やりたいことをやるまでの道が遠すぎる”と、2年足らずで退社したのです。

絵ずかん 好奇心が躍りだす！

専門知識がわかりやすく解説されている絵ずかんは、さまざまな分野にわたり、未知の世界が広がっています。本を読むのが苦手な子どもでも、絵や簡単な説明を読むだけで楽しめます。公立図書館で司書として活躍する児玉ひろ美さん監修でお届けします。



『輪切り図鑑 大帆船』
画/スティーヴン・ピースティー
文/リチャード・ブラット
訳/北森俊行
2,400円(岩波書店)
19世紀のはじめ、ナポレオン戦争最大といわれるトラファルガー海戦で活躍した、イギリスの軍艦の内部を輪切りにして見ていきます。



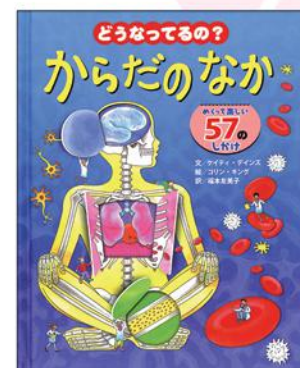
博物館の研究者さんから、化石の発掘などの話を直接聞けることもあります。
『博物館の一日』
作/いわた慎二郎 1,400円(講談社)
東京上野にある国立科学博物館を探検しましょう。恐竜展示室では化石標本の大迫力にビックリ！見るだけでなく、科学の仕組みを体験できるゾーンもあります。



『しごとば 東京スカイツリー』
作/鈴木のりたけ
1,800円(プロンズ新社)
建設が決まってから、6年の歳月をかけて完成した新しい電波塔、東京スカイツリー。歴史的な大プロジェクトに関わった人たちの余すところなく描いています。



『めくってみよう！ やさいとくだもの 絵本図鑑』
作/フロランス・ギロー
日本語版監修・コラム/内田 悟
訳/田久保麻理
2,600円(ひさかたチャイルド)
見開きごとに1種が登場。大きな重さ、主な生産地、原産地からいつごろ、どうやって日本にやってきたのか、野菜と果物のルーツもわかります。



『どうなるの？ からだのなか』
文/ケイティ・ティンズ
絵/コリン・キング
訳/福本友美子
1,800円(ひさかたチャイルド)
食べものの通る道や、「息をする」「血液を送る」「五感の働き」などを、平易な言葉で仕掛けをめくりながら見ていきます。



ピストンが回るエンジンルームの様子も、仕掛けをめくるとわかります。



『どうなるの？ きかいのなか』
文/コンラッド・メイスン
絵/コリン・キング
訳/福本友美子
1,800円(ひさかたチャイルド)
南京錠からジェットエンジンまで、あらゆる機械の中をめくって確認できます。機械好きにはたまらない、めくり仕掛け絵本です。

のぞいてみよう

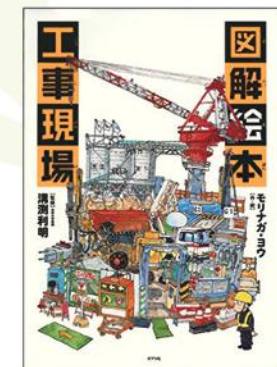
いつもそばにあるのに、実は見えていないこと。いつかは見たいと思っても、チャンスがないもの。見れば見るほど、好きなもの。絵本の中で大公開！心ゆくまで、のぞいてみましょう。近ごろ注目の「働く現場」の作品は、中高生のキャリアデザインの参考にも。

好奇心を刺激する「絵ずかん」
夏休みは親子で一緒に！

「絵ずかん」をご存じですか？年代からある、言葉(文字)の「絵じてん」が、言葉の少ない幼児に、言葉ではなく絵でその意味を伝えるのと同様、「絵ずかん」は物事の形や様子、さらにはその背景まで、言葉ではなく絵で示すものです。その意味では、みなさんもよくご存じのロングセ



『新装版 道具と機械の本 てこからコンピューターまで』
作/デビッド・マコーレイ
訳/歌崎秀史
7,600円(岩波書店)
物を動かす古典的な手法のてこや、最新のコンピューターまで、身近な機械のどうして？がこれでもかといふ盛りに紹介されています。



『図解絵本 工事現場』
作・絵/モリナガ・ヨウ
監修/溝淵利明
1,450円(ポプラ社)
首都高速大橋ジャンクションや羽田空港の拡張埋め立て工事、JR新宿駅南口など、大きな土木工事現場をつぶさに見ることができます。巻末の用語解説で土木通に。



作者からひと言

普段見かける工事現場のフェンスの中はどうなっているんでしょう。自分も入ったことがなかったので、驚くことばかりでした。世の中知らないことがいっぱい。もともと大人向けだった本を、小さな子どもでも読めるように作りなおしました。(モリナガ・ヨウさん)

普段は見ることができない工事現場のフェンスの中の様子が目とわかります。



児玉ひろ美 こだま・ひろみ
図書館司書。JPIC 読書アドバイザー。小・中学校を中心に読みかせやブックトークを実施。読書アドバイザー養成講座の講師も務めるなど、子どもの本に関わる大人への支援を通じ、読書環境を整える活動などで活躍している。

児玉さんの著書

『0～5歳 子どもを育てる「読み聞かせ」実践ガイド』
1,500円(小学館)

初心者向けにはなし会の準備、会場づくり、絵本の選び方、プログラムの組み立て方を丁寧に解説。対象年齢別の注意点や、実践例もあり。オールカラーで美しく見やすいです。



ラーに多い「絵で読む」で始まる作品群も含まれることになりましたね。では、なぜ「絵」なのでしょう？それは、絵は写真にある余分な写り込みを排除しながらも、そのものの特性を正面から最大限に表現できるからです。このことは、子どもの図鑑・図録の多くが絵を用いていることを思い浮かべていただくと納得がいくと思います。図鑑ほど重量感がなく、絵本のようないくとも、子どもが手に取りやすいながら、子どもの好奇心をも刺激する「絵ずかん」。暑くて長い夏休み、親子で一緒に未知の世界を楽しんでみてはいかがでしょうか？

著作権保護コンテンツ

『かあちゃん えほんよんで』

「絵本読んで！」って言いたいけど、母ちゃんは忙しいので言いませせん。なぜって、父ちゃんの方も働いているから。誕生日のケーキを買い忘れてしまった母ちゃんだけど、プレゼントしてくれたのはぼくのほしいものでした。

文／かさいまり
絵／北村裕花
1,300円（絵本塾出版）

『ひみつのいもうと』

パープロには、双子の妹がいました。生まれてすぐに大きなバラの茂みに隠れた妹の名前は、イルヴァ・リー。そして、妹はパープロを「だいすきな おねえちゃん」と呼びました。ふたりは金と銀のたてがみの馬に乗って、森へ冒険の旅に出かけます。

文／アストリッド・リンドグリーン
絵／ハンス・アーノルド
訳／石井登志子
1,400円（岩波書店）

『ぼくのわんこ』

いつも眠そうなわんこです。でも、得意技があるし、かけっこや綱引きといった遊びも上手です。おまけに、強くて勇気があるので、おぼけだって怖くありません。飼い主の小さな男の子にとっては、自慢のわんこです。

文／ローリー・アン・トンプソン
絵／ポール・シュミット
訳／雨海弘美
1,200円（岩崎書店）

『だれのものでもない 岩鼻の灯台』

役目を終え、明かりが消えた古い灯台がありました。灯台守も去り、もう、誰のものでもなくなりました。そこへ、ノラネコ、ムササビ……陸から、空から、海から、動物たちがすみかを求めてやってきます。灯台は、再び輝きだしました。

作／山下明生
絵／町田尚子
1,300円（絵本塾出版）

『ありがとう エバせんせい』

もし大好きな人が亡くなったら、悲しみをどう乗り越えていけばいいのでしょう。エバ先生をうなっただ子どもたちは、先生との思い出を大切にしながら自分の心と向き合います。「悲しいときは我慢しなくてもいいんだよ」という言葉が心にしみます。

文／ヒラリー・ロビンソン
絵／マンディ・スタンレイ
解説／尾木直樹
訳／きむらゆかり
1,300円（絵本塾出版）

『ダンゴムシの コロリンコくん』

ダンゴムシが、まるくなってじーっとしているのは、身を守るためです。石ころみたいに見えるでしょ。だから、今日もコロリンコくんたちは練習しますが、うまくできません。コロコロママに、いいアイデアが浮かんだようです。

文・絵／カズコ・G・ストーン
1,400円（岩波書店）

『メガロポリス 空から宇宙人がやってきた!』

作／クレア・デュドネ 訳／ドリアン助川
2,000円（NHK出版）

大都市メガロポリスは昔から旅する人たちのあこがれの場所。ある日、ほかの星からも円盤に乗って旅人がやってきました。宇宙人でしょうか？ ページを次々に下に広げていくと3.7メートルの長い1枚の絵になります。

今号の注目

担当編集者にお話を伺いました

2015年の春、フランスの出版社から刊行された絵本『MEGALOPOLIS』。日本語訳にあたる「メガロポリス」を辞書で調べてみると、「大都市が帯状になり、巨大都市を形成している地域のことを指す」とありますが、ボローニャ児童書ブックフェアで話題になりました。ページを下にめくっていくたびに街の場面が変わり、主人公が移動していきます。色彩に富んださまざまなキャラクターが細かに描かれていて、「探し絵」としても楽しめます。

この絵本、それだけではありません。物語がおかしすぎるの

です！ はじめて文章を読んだとき、思わず声を出して笑ってしまいました。シンプルながらも驚く仕掛けに、愉快なおもしろい絵本です。作家ドリアン助川さんの訳もどうぞお楽しみください。

それにしても3.7メートルとは少々迷惑（？）な絵本です。書店員さんたちもこの絵本のすごさをどうお客さんに伝えられるか悪戦苦闘されています。しかし、子どもたちがページをめくっていくときの表情を想像してみてください。それだけで幸せな気持ちになります。テーブルやベッドの上でページをじゃばら状態にしながめくっていく方法もありますが、この絵本を満喫するためには、大胆に床に広げながら読んでいた方がいいです。（NHK出版 祝尚子）

クレア・デュドネ

1988年、南フランス生まれ。幼い頃から想像することが好きだった少女は、世界中の物語に触れて育つ。2016年、ボローニャ国際児童図書賞（ラガッツイ賞）においてオペラブリア部門特別審査委員賞を受賞。現在、12カ国での出版が決まっている。

『しろもくんとまめもくくん』

しろもくんとまめもくくんは、歌いながら市場に出かけます。お買い物を終えたまめもくくんは石につまずき、もちころりと転がってしまいました。そこをぼたもちさんに助けられ、いつものおもちの歌を歌って楽しく帰ります。

作／庄司三智子
1,400円（アリス館）

『おおきなでんしゃ』

お父さんが忘れたおべんとうをルイくんが電車に乗って届けることに。駅に入ってきたのは、大きな電車。なぜか街のようにになっている車内を車掌さんの案内で巡り、不思議な冒険が始まります。ルイくんは、無事にお父さんに会えるのでしょうか？

作／座二郎
1,300円（あかね書房）

『へそのかくれが』

あきらの仲よしのゆいくんは、反対のことばかりしたり、言ったりします。ひねくれ者のあまのじゃくが、とりついてしまったのです。あまのじゃくは、次々と幼稚園の友だちのおへそに飛び移ります。気がついた園長先生が「おには そとー」と叫びました。

文／中西 翠
絵／かべやふよう
1,400円（アリス館）

『じまんのマフラー』

まっ白な雪野原にまっ赤なマフラー。クマくん自慢のマフラーが飛んでいっちゃった。「みーつけた!」と、森の動物たちが次々にやってきます。マフラーを帽子にしたり、トランボリンやブランコにしたり。思いがけない展開が待っています。

文／マーシャ・ダイアン・アーノルド
絵／マシュー・コーデル
訳／椎名かおる
1,400円（あすなろ書房）

『イモリくん ヤモリくん』

子どもにつかまえられたイモリくんが水槽の中で困っていると、ヤモリくんが助けしてくれることになりました。おもちゃのヘリコプターに乗って脱出成功! 低空飛行で森の上を飛び、イモリくんが住んでいた池に到着しました。生きものがたくさん登場します。

作・絵／松岡たつひで
1,600円（岩崎書店）

『わるい わるい 王さまと ふしぎの木』

昔むかし、砂漠のまん中に、わがままでいじわるな悪い悪い王さまがいました。でも、ある春の日に「しあわせの実」がなるという種をおじいさんから手に入れます。そのひと粒の種が、王さまに奇跡を起こすのでした。

作／あべはじめ
1,400円（あすなろ書房）

『おじゃまなクマの おいだしかた』

トーマスは、クッションや毛布を集めてぬくぬくと気持ちのいい洞穴をつくりました。ところが、クマに入り込まれてしまいます。クマを追いださなくちゃ! 好きなものでおびきだそうと、あれこれ考え試してみますが、なかなかうまくいきません。

作／エリック・バインダー
絵／ステファニー・グラエギン
訳／三辺律子
1,400円（岩崎書店）

『あいであ』

平和な村に、朝が来しました。動物がひなたぼっこや、かくれんぼをして遊んでいます。大変です! 何か起こったようです。どうしよう? 隠れるの? 逃げるの? どうやって? みんなで考えて、アイデアを出し合って、すてきなものをつくります。

作／こうのあおい
1,500円
（アノニマ・スタジオ）

『ななちゃんのおきがえ』

おばあちゃんから手編みのカーディガンが届きました。ななちゃんの大好きなオレンジ色で、大きなボタンもついています。うれしくて眺めていると、タンスから洋服が飛びだしてきました。ママが手伝わなくても、ひとりで着替えられるかもしれません。

作／つがねちかこ
1,000円（赤ちゃん和妈妈社）

『王子のきつね』

「さてと、人間だましてこよっと」。母ギツネは、子どものために稼ぎに出かけました。ところが、逆に人間にだまされ、びっくりしてギツネの姿に戻り、お店の人に叩かれてしまいます。だました人が、ギツネのところに土産を持って、謝りに来ました。

文／柳家三三
絵／原 マスミ
編／ばけんいち
1,500円（あかね書房）

もう読んだ?

新刊

100!!

2015年12月〜2016年2月に発売された新刊絵本の中から、読みかきにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの応募はアンケート用紙、またはウェブから。

※出版社五十音順

マークは乳幼児から、
曲線は中・高校生も楽しめる本です。

61

60